

No. 1496

中曾根首相・大洋州歴訪

中曾根首相は1月13日夜、羽田発の日航特別機でフィジー、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドの順で歴訪する大洋州四カ国の旅に出発しました。

今回の首相歴訪のキャッチフレーズは「アジア太平洋新時代——21世紀への幕開け」

首相としてはこの歴訪で太平洋地域協力の具体化の足がかりを固めたいところです。

しかし、どこの国々も「花より団子」とばかりに貿易拡大や援助などの現実問題に大きな関心を示すばかり。

その上、核拒否の厳しい主張まで飛出しては世界の“ヤス”も少々ウンザリといったところです。

それでも最後の訪問国ニュージーランドで、先住民・マオリ族の熱烈歓迎を受けて、ようやく笑顔をとりもどすといった中曾根首相大洋州訪問の旅でした。

春だより

— 沖 縄 —

暦の上では立春というのに北国は未だ雪につつまれています。北海道も吹雪がつづき、この寒波は二月一杯居すわる様子。

スキー客は大喜びです。同じスキーでも水上スキーを楽しんでいるのは年間平均気温22度の南国沖縄です。

札幌・沖縄間2,500キロ、3時間30分で結すぶ直行便も就航し、一段と観光客が増えているとのこと。ブーゲンビリア、ハイビスカスなど熱帯の花が咲き誇る植物園。トックリヤシの並木は日本一といわれています。

又世界中から180種のサボテンを集めたサボテン公園。10万平方メートルの広い園内にそそりたつ弁慶柱や球型の金鯰（キンシャチ）など珍しいサボテンが南国ムードをかもし出しています。

ゴルフ場も青い空、緑のじゅうたんで最高のコンディション。本土からの予約客で2月も埋まっている人気です。寒さ知らずの沖縄は日本一早咲きする「緋寒桜」が咲き今帰仁城址を始め本部、名護など桜の名所は家族づれや観光客の人出がつづいています。10年前にひらかれた海洋博会場も沖縄観光の目玉として根付いています。

観光客200万人、観光収入2,000億円と観光は沖縄県の重要な産業となり県も力を入れ出しています。

春まっさかりの沖縄。北国の人にはうらやましい春の便りです。